

「男女共同参画推進ガイドブック」

～未来をつくるあなたたちへ～

自分らしく生きるために

ジェンダーについて
「男は青」「女は赤」や、「女はしとやかに」「男は力強く」などのように、無意識のうちに男はこうあるべき、女はこうあるべきといった、社会のしきたりや慣習、さらにはテ

学校や社会における、固定的な性別役割分業に気付くとともに、男女の性差にとらわれることなく、個人の能力や個性を発揮して生きていく態度や考え方を身につけるため、「男女共同参画推進ガイドブック」を作成し、市内26の中学校3年生に配布しました。ガイドブックは次のような構成になっています。



レビや雑誌などの情報から自分の考えや、行動が大きな影響を受けていることを知りま

身の回りについて
「家事・育児・介護は女がす

るもの。」「男は一家を支えるべき。」などの性別役割分業に気づきます。

進路について 考えてみよう

中学3年生はまもなく義務教育を終え、将来の進路を考える時です。女だから、男だからにとらわれず、自分らしさで進路を考えてみます。

ガイドブックでは自分らしさで職業を選択した先輩を紹介しています。

仕事と家庭について 考えてみましょう

これまでの日本は男が仕事をし、女が家庭を守るというのが、一般的な考え方でした。人が生きていくためには、家庭も仕事も共に欠くことのできないものです。これからは、自分らしく生きていくために、男女が「仕事と家庭をともに大切にする生き方」をし、精神的、経済的、生活的（衣食住の身のまわりのこと）にそれぞれが自立していくことが大切です。

21世紀、日本社会は大きく変化し、これまでの概念も、社会の仕組みも、大きな変革を必要とするでしょう。そのような社会では、男性女性に関係なく、個々人の多様な能力の活用が不可欠となります。

そのためにも、子どもたちが、性別にとらわれることなく、自分の個性を生かし、能力を発揮できるような社会を残していくことが大切です。男女平等がいわれて久しいのですが、私たちの日常生活の中には未だ、「男が主で、女が従」「男は仕事、女は家庭」といった男女差別意識や性別役割分業意識が根強く残っています。

長年のしきたりや、慣習の中で受け継がれてきた意識を変えることは、並たいていことではありません。地道ではありますが、一人ひとりが、意識して行動することが大切です。ガイドブックが、ご家庭での話し合いのきっかけとなることを願っています。